

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



社会福祉法人

小羊学園

〒433-8105

静岡県浜松市北区三方原町 2709-12

電話：053-414-1833 FAX：053-438-7707

E-mail square@kohitsuji.or.jp

H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人：稲松 義人

印刷所：SRS株式会社

定 価：一部 30 円

2014年 9月 20日

第 376 号

親 心

理事長 稲松 義人

親思う心にまさる親心

今日のおとずれ何と聞くらん

小羊学園に勤めはじめた頃、吉田松陰に関心をもったことがあります。この一首は、処刑を前にした吉田松陰の詠んだものです。幕末に国の将来を考え、行動し、闘った人たちが多くいたことは、時代を隔てた私たちも様々ななかちでその一端を知ることができません。夷敵(外国)の脅威を肌で感じ、相手を知らなければ抗しきれないという信念から、国禁を破って海外渡航を試みた人たちがいきました。新島襄はそれに成功し維新後の日本で活躍しましたが、吉田松陰は失敗し、幕府に捕らえられ、国元の長州(山口県萩市)で幽閉されます。松陰は、牢内でも周囲の囚人たちの啓発に努め、幽閉を解かれて自宅謹慎となったあとは、叔父が始めていた松下村塾で教えるようになりました。そこに藩内から多くの青年たちが集まり、学んだ者たちから、明治維新へと歴史を動かす人たちが出されたことはよく知られたことです。松陰自身は、揺れ動く時代の中で再び嫌疑をかけられ、幕府に拘束され、江戸で処刑されます。歴史で学んだ

安政の大獄です。

この歌を勝手に解釈すると、「処刑されるであろう今、私は故郷の両親のことを思います。しかし、その思いよりも強く両親は私を心配しているでしょう。その両親はやがて聞くだろう私の訃報をどのような思いで受け止めるのだろうか」という意味でしょうか。

たしか、松陰の母滝子はその後、孫(松陰の甥姪)に「松陰叔父のようにならなさい。」と話したという逸話があったように思います。この母親は、心ならず自分より早く(約30歳)、それも罪人として処刑された子の生き方を、誇りをもつて孫たちに伝えていっているのです。何という親心でしょうか。

今の時代も、親は誰でも自分の子どものことを心配していると思います。まして障がいのある子をもった親御さんたちには、子どもの将来のことが常に大きな心配の種でしょう。昔に比べると、かなり福祉サービスが充実してきたと思える今になっても、「この子より一日でも長く生きることが私の願いです。」と言われる親御さんがいます。また「たとえ障がいがあつても順番からいうと私たちの方が先に逝くのだから、早く施設に入所させたい。」とおっしゃる方も少なくありません。他の子どもたち(きょうだい)に託したいという人もおられますが、自分たちのしてきた苦勞をきょうだいに負わせるわけにはいかないというのをもまた、

きょうだいたちへの親心でしょうか。それでも、「たとえ障がいがあつても、やがては親から自立して社会の中で生きていつて欲しい。」とおっしゃる方たちも増えてきました。親の思いは様々で、態度はそれぞれ違っていても、どれもこれも「親心」と思います。子どものことを心配しない親はいないのだろうと思えます。反面、(これも障がいのある子ども)親だけではありませんが、「親たちにも自分の人生があるのだから・・・」と都合のよいサービスが受けられないことを社会の責任、行政の責任として不満をぶつけてこられる親御さんもいらっしゃる。

よりよい人生を生きたい、一人の市民として地域社会で暮らしたいという人たちの思いが、心身の障がいのみならず、既存の社会のルールや地域社会が阻んでしまっているとするれば、その壁を打ち崩していくために、粘り強い努力を続けなければならぬでしょう。

たとえ不遇な境遇に置かれたとしても、周囲の人たちに理想とする新しい時代への思いを伝え、身近な人たちの啓発のために生きようとした吉田松陰のように、自らの信念に誠実で前向きでありたいと思います。

そして、親御さんたちが、障がいの中で生きる子どもたちの人生を誇りに思うことができる社会にしなければならぬのだと思います。

つばさ静岡における在宅支援の現状と ライフサポート事業

つばさ静岡 鈴木 良成

つばさ静岡の短期入所

短期入所(ショートステイ)は、在宅の重症児者を支援する上で重要な役割の一つであり、運営していく上でも欠かすことのできない事業であります。地域で暮らす重症児者が、日中の生活場所(家庭、学校、通所)とは違う場所として、安心して利用できるようにつばさ静岡では、10名の方を受け入れるベットを用意しています。そのうち、医療的ケア(人工呼吸器、経管栄養等)を必要とされる方が4名、非医療的ケア(摂食)の方が6名、常時満床に近い状況で利用されています。利用される方は年々増加し、県内全域から来られており、現在300名の方と契約をしています。以前に比べ、重症児者が利用できる事業所(県西部、東部)及び、ベット数は増えているのですが、在宅重症児者のニーズにすべては答えられない現状があります。毎月2名から3名の新規利用者契約があり、緊急時の為にベットを空けておくこともできず、日々調整をしている状況があります。

新規の利用者契約は、医師の診察を受けていただき、つばさ静岡での受け入れが可能であるかを相談させていただきます。重症児者の短期入所のサービス(1泊2日)での利用日調整をしていただきます。2ヶ月後にはなりますが、御家族も泊まっていたいただき、特に夜間の様子から安全に対応できるかを検討します。初めての経験になりますので、不眠や緊張もありますが、御家族とも相談させていただき決定していきます。在宅で生活している重症児者は、いろいろなサービスを受けていますが、特に重度の方の場合、ほとんど家族と一緒に過ごしており、本人の生活リズムに合わせて時



間が流れている現状の中で、直接介護している家族(特に母親)の負担軽減や家庭での諸行事のサポートとして短期入所事業の目的があると思います。

つばさ静岡の場合、利用申し込みが2ヶ月前からとなります。10日間の申し込み受付期間から利用調整に入ります。利用希望は、さまざまであり冠婚葬祭、介護者家族の病気や入院治療、出産等が優先度としては高いこととなります。できるだけバランス良く、定期的に利用できるように調整をしています。限られた枠の中では希望通りにすべてを調整できるわけはありません。また、緊急時には調整ができた後にお断りをさせていただく場合もあります。いろいろな状況の中で御理解していただきながら、安心してお預かりできるように相談支援事業所とも情報交換しながら行なっています。

静岡市ライフサポート事業

生活介護事業所わたぐも(定員20名)で取り組むことになり10ヶ月が経過します。ライフサポート事業は、通所施設でショートステイを提供し、家族の介護負担を軽減する目的があります。内容として宿泊型ショートステイと日帰りショートステイがあります。日中活動するわたぐも利用者の内5名から6名が、宿泊しながら利用するということです。年間のスケジュールの中で三連休のある

月の週末に合わせて、希望調整して行きます。夜間対応の職員も配置して翌日も日中活動の利用日となります。日帰りショートステイは、通常利用時間を延長し、夜9時までお預かりすることをこなしています。各通所事業所で、宿泊型及び日帰りショートステイを提供することで、つばさ静岡のような入所施設で在宅の重症児者が、短期入所(ショートステイ)を利用できる枠が広がるという試みでも行なっています。

お迎えの時、気持ちの充電ができたような家族の表情や「大変助かりました」という感謝の言葉をいただく私たちの仕事は、在宅で生活している重症児者やその家族を支えている重要な役割があることをあらためて感じさせられます。今後在宅支援においてもつばさ静岡が、重症児者や家族にとって心の拠り所としての存在になるように努めていきたいと思っています。



相談業務と静岡地区ネットワークの現状

アグネス静岡 鈴木 崇之

相談支援

アグネス静岡は、主に重症心身障害児(者)を対象とし、静岡市委託の障害者等相談支援事業とサービス等利用計画・障害児支援利用計画を作成する指定特定相談を実施しています。

静岡市委託の相談のみでも前年度約130人、対応回数1500回以上の相談支援を行いました。ご本人やご家族の様子を確認し、必要となる支援と一緒に考えます。重症心身障害をお持ちの方が利用できる資源はまだ不足しています。不足している資源をどのように利用していくか、他に手立てはないか日々悩んでいます。ご本人やご家族の気持ちに寄り添って一緒に考えても根本的な解決となることばかりではありません。継続的に関わることや地域の関係機関の皆さんと課題について共通認識を持つて取り組んでいくことが重要となっています。

最近では、「老障介護」という言葉が聞かれるように、高齢な親御さんが障害のお持ちのお子さんへの介護力が、低下し在宅生活が維持できない相談を多く受けるようになってきました。これまで築いてきた安心の生活スタイルを変えない方法はありましたらよいか？新たな



なサービスの利用についてもご本人やご家族の精神的な負担はどうか？介護できないからサービスを利用するとの単純な判断になりそうですが、その時のご本人やご家族の気持ちに寄り添って、納得して気持ちよい生活にする為によくお話をし、関係機関の方々とパイプ役も相談員としての大きな役割と考えています。

私自身、支援員から相談員に転属となつて2年が経ちました。多くの利用者やご家族、そして事業所や関係機関の方々と多くの出会いがありました。支援員の時には、あまり感じていなかった「地域での生活」を少しづつ意識するようになってきました。

静岡地区ネットワーク

静岡県重症心身障害児(者)在宅支援ネットワークは、全県の保健福祉圏域単位で、重症心身障害児(者)の様々な課題について協議しています。中部地区では、志太榛原地区と静岡地区と分かれて会議を持ち、アグネス静岡は静岡地区でのネットワーク会議の事務局として活動しています。

ネットワークの目的

- 関係者による情報の共有と連携した取り組みを促進する
- 情報共有機能を高める
- 明らかになった課題の担い手を探す、生み出す
- それまでの間、課題解決に向けた取り組みを行う

重症心身障害児(者)に関する様々な課題に関して、行政・訪問看護・放課後等デイサービス・相談・生活介護・当事者家族など多くの方々に参加いただいで協議しています。その場で解決に至ることを求めるのではなく、課題を整理しつつなげる相手を明確化し、委ねていくことが必要と考えています。

これまで静岡地区で課題となり、ネットワークを飛び出し取り組んでいるものとして、2点あります。

災害時支援

重症心身障害児(者)が災害時の為にどのような備えが必要なのか？の検討からスタートし、現在は静岡県社会福祉協議会の助成金を受け「重症児者の自宅避難を支援するネットワーク構築事業」に取り組んでいます。

人工呼吸器装着児の通学保障

人工呼吸器を装着している児童が通学する場合、家族や兄弟の状況による現状があり、家族や兄弟の状況によって本人が通学できないことも多くなつてしまします。現在、当事者団体の音頭で勉強会という形で教育委員会や学校、医療機関等様々な方々と話し合いを行なっています。

ネットワークの中で話し合われることは多岐に渡ります。今後も、重症心身障害児(者)の生活が少しでも豊かになるように、多くの方々と一緒に協議が出来るしていくことを期待しています。



しっぺい君も来場！大盛況でした！
オリーブの樹 小泉 真己



オリーブ祭りが今年も晴天に恵まれ大盛況で開催することが出来ました。第4回となる今年はメインゲストとして、磐田市のゆるキャラ「しっぺいくん」をお招きすることが出来ました。来場者の皆さんはしっぺいくんとのふれあいを楽しんでいました。フリーマーケットや模擬店、毎年好評のバザーなども来場者を楽しませていました。利用者、保護者、地域の方々、関係各所の多くに来場いただくことが出来、普段なかなかふれあいを持つことが出来ない方達と職員とのふれあいも持つことも出来ました。利用者の方達のいつもとは違う笑顔を見られるのもオリーブ祭りの醍醐味の一つでもあります。今後も、このオリーブ祭りをずっと続けていくことが出来るように頑張っていきたいと思えます。

機織りの展示即売会を行いました

北区細江町の気賀関所すぐ横にある、奥浜名湖田園空間博物館で、先日約10日間にわたり支援センターわかぎの機織り製品の展示・販売会を行い、利用者もほぼ毎日出掛け、ワークショップのイベントも実施しました。来場された地元の方や観光客も足を止め手に取り、利用者が感性で織り上げた作品に関心を持って買い求めただけでした。また、機織り活動にも一緒に参加したいというお話も何件かいただきました。こうした機会を大切に、地域の皆さまとの交流の輪が広がることを期待しています。

【公益信託市川園】様より 発電機をご寄贈いただく

児童発達支援事業たんぼぼ

たんぼぼは重度障害をお持ちの幼児をお預かりする通園事業です。対象のお子様は医療度が高く電源を必要とする携帯酸素やたん吸引装置が常時必要です。大規模災害時の電源確保のために必要不可欠な発電機を、公益信託市川園様に申請をしたところ助成頂きました。

この度、購入させていただいたご報告とともに、助成頂きました公益信託市川園様に厚く御礼申し上げます。

助成物品：自家発電機2台 442,368円
助成金額：430,000円



小羊学園を支える会

2014年度 寄付金報告

8月受付分 1,359,698円 (30件)
累計 2,879,278円 (118件)

小羊学園への寄付金振込み先

郵便振替口座 00800-8-107785
口座名義 社会福祉法人小羊学園
ゆうちょ銀行 089店 当座預金0107785
口座名義 社会福祉法人小羊学園

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。下記へご連絡ください。
小羊学園を支える会事務局 (鈴木)
小羊学園本部 ☎ 053-584-3337

編集後記

平成17年に浜松市南区に開所したマルカートが一足早く開設10周年記念の夕食会を9月26日に館山寺温泉サゴロイヤルホテルで行った。

一泊旅行も兼ねており、当日は名古屋コース・清水コースに分かれ観光し、翌日は館山寺オルゴールミュージアムやフルーツパークを観光したようだ。

前施設長の小生は、夕食会と宿泊に参加し、ご家族や旧職員とこれまでの歴史を振り返り、思い出話に花を咲かせながら、楽しい時間を過ごすことができました。

肌寒さを感じる季節となっております。肌寒さを感じ季節となっております。肌寒さを感じ季節となっております。